

【秋の花育の日】 お店で寄せ植え体験



小学生男子の作品

「オアシスに水を飲みきた
シマウマ」

10月19日(土)、秋の花育の日は「多肉・観葉植物寄せ植え体験会」を開催しました。会場は万代ビルボードプレイスにある 花店「LEAFS(リーフ)」。店内のいたるところに置いてある植木鉢の中から好みのものを見つけたら、その後は花育マスターにアドバイスをもらいながら植物を選び、そのまま店内で寄せ植えをしました。

好みの鉢を見つけるための宝探しのようなワクワクと、その場で植込みができる体験に参加者みなさんが大喜びでした。「楽しかった!」「またやりたい!」の笑顔にこれぞ「花育」を実感した一日でした。



青い鉢と黄色のサボテンが絶妙



にいがた

花育通信

Vol.34



○「門松」はなぜ飾るのか?

○花育通信園芸講座

○花育 News



「門松」はなぜ飾るのか?

お正月の玄関先に「門松」や「松飾り」をする風習は平安時代から続く日本の正月文化ですが、飾る理由を知っていますか?



【新潟フラワーデコレーション ～越の花飾り～】

今年も越の花飾り実行委員会さんによる「新潟フラワーデコレーション 越の花飾り」が11月1日～4日まで「燕喜館」で行われました。今年は第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会と連携しテーマは日本伝統文化と我が国に根ざす豊かな花文化の融合による「にいがた花文化彩」。さまざまな花展示やデモンストレーション、来場者も参加できる花育体験など花を思い切り満喫できる空間でした。来年も楽しみに待ちましょう!



花育マスター(みずのさん・坂上さん)のプランツギャザリングのデモ。作品は翌日のオークションに出品。トークも楽しく笑顔がいっぱい♡。

当日参加の花育体験
子どもも楽しく花遊び☆

神様、こちらです

お正月になると各家々に豊作や家内の安全を守る歳神様(としがみさま)が訪れるための目印として、また家に来てくれた歳神様のお休みする所【依り代(よりしろ)】として門松が飾られたそうです。

マツ=祀る

もともと神様が宿ると思われてきた常緑樹の中でも「マツ」は「祀る」につながる樹木であることから、門松に用いられたとされています。また、地方によっては同じ常緑樹でスギやクスノキ、サカキなどを用いるところもあります。(常緑樹=四季を通して緑葉を保つ樹木)

令和二年へ向けて

簡単ですが、門松についてお伝えしましたがいかがでしょうか? 絵にあるように門松というと竹に目がいってしまっていますが、大事なものは松なんです。令和二年を迎えるにあたり今年は「門松」や「松飾り」をし、神様に素通りされないようにしたいものです。縁起物と一緒に置くことで見つけてもらいやすくなるそうですよ。



12月28日に正月飾りをするとういときされています。

「八」は末広がりめでめでたい数字といわれているから?!

手作りで心も身体も温めよう

新潟市食育・花育マスター 永嶋 節子
(JHS 認定 上級ハーブインストラクター)

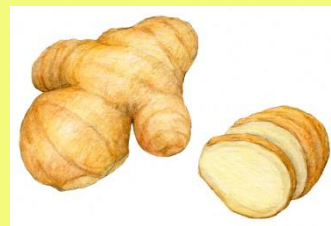


長きにわたり食育・花育マスターとして活躍されている永嶋節子さん。白鳥が飛来する西区佐潟のほとりにあるハーブランドシーズンを主宰されています。また食育・花育センターやハーブランドシーズンで各種講座もされており、日常にハーブを取り入れる方法をわかりやすく教えてくれています。今回は寒さが厳しくなるこれからのピッタリの身近な食材でつくる身体ポカポカレシピを教えてくださいました。

【しょうが】

数年前から「しょうが」の身体を温める効果に注目が集まっていますね。しょうがは乾燥させることにより血流を促進させるショウガオールという成分が作られます。ではさっそく身近にある「しょうが」を使って乾燥ショウガ作ってみましょう！

- ①しょうがをよく洗う
- ②薄くスライスする
- ③ざるに並べ2・3日干す（冬場は室内干しでも可）



乾燥したしょうがをお湯に入れ、ハチミツなど好きな甘みを入れれば簡単にショウガティーを作ることができます。市販の紅茶にいれればしょうが紅茶も楽しめますよ。



【みかんの皮】

冬の果物の定番「みかん」。手軽に取り入れられるビタミンCとして大活躍する果物です。食べ終わったみかんの皮も乾燥させればお茶などとして楽しめます。

- ①みかんの皮をよく洗う（無農薬のものはそのままでもOK）
- ②ざるに広げ、カラカラになるまで日陰で干す
- ③元の大きさの2～3割程度の大きさになったら完成



お茶として・・・お湯と一緒に乾燥みかんの皮をいれるとほんのりみかん味（甘味はお好みで）香りづけ・・・細かく刻んで粉末状にすると、お菓子作りなどに活用できます。

肥料として・・・粉末にした後、土の上にまいたり、混ぜたりして使えます。

その他、ネットに入れてお風呂に浮かべると入浴剤のように使えます。

最近では柑橘系の果物もたくさんの品種が売られています、その品種ごとに作ってみるのも楽しいですね。

洋ランの世界をのぞいてみよう



新潟市花育マスター 細川 雄作



江南区中央卸売市場のすぐ近くにある「細川洋蘭農園」、いつも笑顔でお客様の質問に答えてくれる細川雄作さんに、初心者でもわかる洋ランの世界について質問してみました。

Q：ランは何種類くらいあるのですか？

A：ラン科植物は野生種だけで 15,000～25,000 種

人の手で作られた園芸品種も含めると途方もない数になるんです。まだ新種なども発表されるため地球上の植物の1割はランだとも言われています。ランの種類には大きく分けて2つあり、樹木や岩上に根を張り付かせ固定し、根は空气中に常に露出しているのが「着生ラン」、一般的な草花と同じように土に根を下ろして成長するものを「地生ラン」と呼びます。現在よく目にするランは「着生ラン」がほとんどとなっています。

Q：洋ランといわれているのはどんなものですか？

A：一般的に多く栽培されている洋ランを五大属としています（カトレア・シンビジウム・デンドロビウム・パフィオペディラム・ファレノプシス）ファレノプシスは日本では胡蝶蘭として有名です。洋ランは東南アジアや中南米原産の樹木などに着生しているものが多く、自然の中では適度に風を受けて、雨や朝露が降ればしっかりと濡れて、晴れば乾くというような繰り返しをしながら育っています。

Q：洋ランは新潟の冬でも大丈夫ですか？冬越しのポイントは？

A：新潟の冬はなかなか日照が少なく洋ラン栽培には少しきびしい環境ではありますが、管理するご自宅の環境をよく理解することできっと大丈夫です。まずはランを管理するご自宅の環境がどのくらいの温度まで下がるか（最低温度）を知ることが大切です。その場所の最低温度が分かれば育てられる種類や管理方法が分かります。

【最低温度 10～7℃程度】 ※洋ランを置く場所

どうしても夜間から朝方にかけて温度が下がってしまうという場所では、シンビジウム、デンドロビウム、オンシジウム、カトレアなどの比較的寒さに強いとされる種類のランをオススメします。ただし、寒さに強いとされるランも、寒いのが好きなわけではなく、ギリギリ耐えられるというようなイメージで考えてください。葉や茎に多少シワが入る程度に水やりの量やペースを抑えて、暖くなる春まで枯らさずにやり過ごすという感覚で管理します。（シワの入った葉や茎は根が傷んでいなければ春からの水やりでハリを取り戻すことができますので心配いりません。）

【最低温度 15℃以上】

高断熱・高気密住宅などの冬でも暖かい造りの家が最近では多くなり、そんな家ではほとんどの種類のランを育てることができ、ラン栽培にはもってこいの環境なんです。（特にコチョウランは温度さえ保てれば誰でも育てることができる実は簡単なラン）冬でも温度が高く保てる場合の水やりは、植え込み材料が乾き始めたら怖がらずにしっかりと与えます。根が傷んでいる様子がなく葉や茎にシワが目立つようだと乾かし過ぎている可能性があります。

どんな植物にもいえることですが室内に取り込んでからも緩やかな風が大切です。さらに室内の乾燥が激しい場合には空間を加湿する必要もあります。もともとランは自然の中にある植物であるということを忘れてはいけません。洋ラン栽培の上手い下手はテクニックで決まるものではなく、管理する場所が物を言うといってもいいでしょう。冬でも暖かい造りの家にお住まいの方(最低気温 15℃以上)は、洋ラン栽培にすごく恵まれている